



- 1 夕暮れの霞ヶ浦【Lake Kasumigaura in Evening】
- 2 帆引き船【Hobikisen Sailboats】
- 3 アサザ【Floating Heart】
- 4 レンコンの収穫【Digging Lotus Root】

1

日本で琵琶湖に次ぐ大きさの霞ヶ浦は、
古来より漁場や農業用水源、水上交通路として、
人々の生活とともにありました。

水面の ゆらめき



2



●アサザの花

●アサザの定植



アサザの定植を行う 佐賀小学校の取り組み

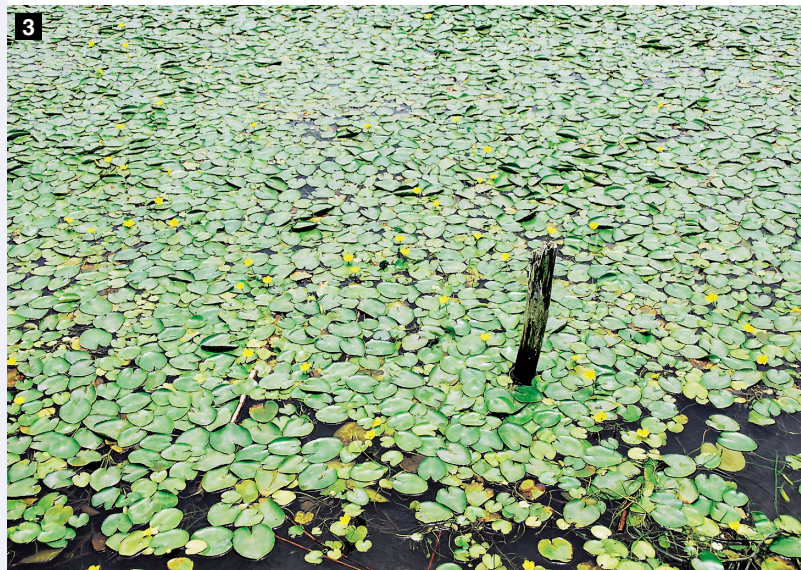
夏に黄色い花を咲かせるアサザ。佐賀小学校では、3・4年生の「総合的な学習の時間」に、NPO法人アサザ基金の協力を得て、霞ヶ浦の川尻川河口付近でアサザの定植を行っています。

小学校内にはビオトープが設けられており、霞ヶ浦から採取したアサザを増やし子どもたちが大きなバケツで40日間にわたって育て、7月に霞ヶ浦に再び定植しています。

定植以外にも、美しい霞ヶ浦を取り戻そうと、霞ヶ浦を素材とした環境教育活動が行われています。

Floating Hearts' Planting pushed forward by Saga Elementary School

In July, Saga Elementary School implements the planting of Floating Hearts near the estuary of Kawajiri-gawa river flowing into Lake Kasumigaura, with the cooperation of the NPO Asaza Fund. It also performs activities for environmental education about Lake Kasumigaura.



Bountiful Lake Kasumigaura

Lake Kasumigaura has an area of 167.6 km², designated Suigo-Tsukuba Quasi-National Park. This lake is a fishing spot for pond smelt, Japanese icefish, and carp. At the lakeshore, paddy rice fields and lotus root fields extend.



霞ヶ浦 豊かなる湖

水郷筑波国定公園に指定されている霞ヶ浦。西浦ともいい、面積は167・6平方キロメートルに及びます。ワカサギやシラウオ、コイなどの豊かな漁場として、古くから人々の暮らしを支えてきました。常陸国風土記には、霞ヶ浦一帯が「流海（ながれうみ）」と呼ばれ、人々は魚をとり、海苔を干し、塩を焼いて生計をたててい

たと紹介されています。湖岸には、水田やハス田が広がり、今も変わることなく人々に恵みをもたらしています。また、白鳥をはじめ、マガモやコサギなど多くの水鳥たちの命を育むゆりかごである霞ヶ浦。この豊かな環境を守ろうと、水質を浄化するというアサザやヨシの定植などが、市民の手によって行われています。